

二〇一九年度(平成31年度)

横浜女学院中学校

C 入学試験問題

平成31年2月2日(午前)

国

語

注意

- 1 監督の指示があるまで開けないでください。
- 2 問題は、19ページあります。
- 3 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- 4 時間は50分です。

受験番号

氏名

— 次の——線①く④のカタカナを漢字に、漢字をひらがなにしなさい。また、文章中の漢字の間違まちがいを1か所ぬき出し、正しい漢字に直しなさい。

水郷地帯の道路を拡張する計画が進められている。川沿いの水田をうめたてて、道路を広くしようというのだ。しかし、このチイキの水田には多くの生物が暮らしている。工事は、この生物たちの生息場所をこわすことになる。水田は多くの水生生物にとって、ち魚や幼虫がスダつ場所になるのだ。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数制限のある問いは、句読点や記号も1字に数えます。)

ワタルくんは子役として活動する小学六年生である。一九七三年、ワタルくんはテレビドラマ「たんぼぼ団地のひみつ」の主演となり、つぐみ台三丁目団地でドラマの撮影をするうちに団地の住人たちと親しくなっていく。夏休みになってもワタルくんは撮影のためにいそがしい日々を送っていた。

「ワタルくん、明日、ウチに泊まりに来なさいよ」

ショーコ先生が声をかけてきたのは、第二回の視聴率しちやうりつが出た数日後だった。

「お盆休みぼんやすが終わると、撮影のスケジュール、もつとキツくなるんでしょ？　じゃあ、いまのうちに『夏休みの友』を進めておかないと、あとで大変よ。明日ウチに泊まり込んで、算数の応用問題、少しでもやっちゃおう。ね？」

マネジャーやワタルくんの両親には、すでに宿題合宿をすることで話を通してあるらしい。

さらに、ショーコ先生はつづけた。

「明日は土曜日だし、撮影は夕方終わるんでしょ？　ウチのおじさんも明日のシフトは日勤だから、夕方には帰ってくるの」

鉄工所に勤める徹夫てつおさんとは、まだ数回しか会ったことがない。元気で明るいショーコ先生とは対照的に、無口であまり笑わないひとだ。ショーコ先生と同じ年だから、まだ三十前のはずなのに、やけにシブい。こつちをジロツと見るまな

ざしはいつも怒^{おこ}っているみたいで、正直に言うと、ちょっと苦手だった。

シヨーク先生のウチに泊まれるワクワクと、徹夫さんに叱^{しか}られたりしないだろうかというドキドキが複雑に入り交じる。シヨーク先生はそんなワタルくん^①の胸の内を見抜^ぬいたように、だいじょうぶよ、心配しないで、という笑顔をつくって、言った。

「ワタルくんを泊めてあげようって最初に言いだしたのは、おじさんだったのよ」

「そうなんですか？」

「ワタルくんとゆっくり会いたいって、ずっと思ってたのよ、おじさん。ワタルくんが泊まってくれるんなら、連れて行ってあげたいところがあるんだって」

「どこですか？」

「それは、泊まってお楽しみ！」

シヨーク先生はバラエティ番組の司会者みたいなおどけた口調と身振^ぶりで言った。

翌日、ワタルくんは撮影を終えると、着替^きえを入れたバッグを提^きげて、501号室を訪ねた。

チャイムを鳴らすと、玄関^{げんかん}の中で待ちかまえていたみたいなのに、すぐさまドアが開き、徹夫さんが顔を出した。突然のことに心の準備ができていなかったワタルくんは、思わず、ひゃっ、と叫んであとずさってしまった。

部屋の中から、「ほら、だから最初はわたしが出るって言ったのに」とシヨーク先生の笑った声が聞こえる。徹夫さんも、25

よく見ると、いつもよりちょっと、ほんの少しだけ、表情がやわらいでいる。^②

「行こう」——声は、やっぱり、無愛想^{おあいそう}だった。「着替^Aえも一緒^{いっしょ}に持^Aって行くのを忘れるなよ」

「どこに……ですか？」

「風呂^{ふろ}だ」

「え？ でも——」

「いいから、行くぞ」

徹夫^{てつお}さんは、開襟^{※1}シャツにズボンを穿^はいて、足元はサンダルだった。しっかりした外出のような、それでもなさそうな、微妙^{びみょう}ないでたちだったが、手に提^ひげたレジ袋^{ぶくろ}にはタオルや石鹸^{せっけん}や替えの下着が入っているから、やはりお風呂なのだろう。

「遠いんですか？」

「ちょっと歩く」

「団地の外ですか？」

「行ってみればわかる」

言葉は短く、声は低く、階段を下りる足取りは速い。子ども相手の気づかいなど、なにもない。何度か出演したことがある刑事^{けいじ}ドラマの、ぶっきらぼうで不良っぽい若手刑事みたいに——いや、むしろ、無口で世の中とうまくやっていけない犯人役のほうに近いだろうか。

それでも、五階から一階まで先に階段を下りた徹夫さんは、あとをついてくるワタルくんが下りきるのを待って、言った。

「いつも、駅から団地までは、マネジャーさんの車で来てるんだろ？」

「はい……」

「駅前の商店街は歩いてない？」

「はい……一度も」

「団地坂はどうだ。階段の一番下まで行ったことはあるのか」

「ないです。てっぺんのところから途中とちゅうまで下りて、また上っていくところを撮とっただけです」

答え方が悪いと叱られるんじゃないか、と内心ビクビクしていたが、徹夫さんは、よしわかった、と歩きだした。

「じゃあ、団地坂を通って行こう」

「お風呂……銭湯ですか？」

「ああ」

ワタルくんの表情が、突然パツと明るくなった。「銭湯、入ったことあるか」と徹夫さんにきかれると、勢いよく首を横に振った。「僕ぼく、初めてです！」

^B「……そんなに大きな声出さなくても、聞こえるから」

徹夫さんは、ワタルくんを振り向いたあと、やれやれ、と頬ほほをゆるめた。

週末の夕方のつぐみ台駅前商店街は、自転車ではまっすぐ通れないほどのにぎわいだった。駅のほうから踏切ふみきりの音が聞

こえる。「へい、らっしゃい、らっしゃい！」「安いよ安いよ安いよ！」という威勢のいいお店の呼び込みも。

※2

半ドンの仕事が夕方まで長引いたのだろう、駅から家路を急ぐサラリーマンもいれば、ご近所同士で「軽く一杯」となったのか、焼鳥屋でビールを飲んでる普段着姿のおじさんたちもいる。日焼けした坊主頭の高校生グループが、精肉店の店先で揚げたてのコロッケを頬張る。精肉店の隣のレコードショップは大ヒット中の天地真理『恋する夏の日』を大きなポリウムで流し、さらにその隣の電器店のショーウィンドウには、窓用エアコンの新商品が、キラキラしたモールドで彩られて展示されている。

ワタルくんは、一軒一軒のお店のたたずまいを端から、そして左右代わるがわる、目を輝かせて眺めていく。

※5

ドラマで商店街のロケをしたことは何度もあったが、仕事抜きで街をぶらぶらと歩くのはひさしぶりだった。朝からのロケで体は疲れているはずなのに、足取りは不思議なほど軽い。しかも、歩くにつれて、どんどん軽くなっていく。

65

徹夫さんは、商店街の案内をしてくれるわけでも、話しかけてくれるわけでもない。ワタルくんを放っておいて、少し先を一人で歩く。ただ、その「少し先」の距離は、ずっと変わらない。お店を見ることに気を取られたワタルくんの足取りが遅くなったり、立ち止まったりしても、変わらないのだ。

ときどき、ワタルくと目が合いそうになる。つまり後ろを向いている。すぐに顔をそむけ、あわてて歩調を速めるのだが、数歩もいかないうちに、また足の運びはゆっくりになって、「少し先」はやっぱり変わらず「少し先」のままだった。

70

銭湯は商店街から路地を一本入った先にあった。なんの変哲もない、ごくあたりまえの銭湯だ。温泉ではなく水道水を

沸かしているだけで、建物に趣おもむきがあるわけでもなく、ペンキ絵も富士山と三保みほの松原というありふれたものだった。

ワタルくんは、銭湯こそ初めてだったが、テレビのロケで温泉の大浴場には何度も入ったことがある。それでも、銭湯のお湯に浸つかった瞬間しゆんかん、ああ、これ、最高だ……と、深いため息をついた。無意識のうちに目をつぶり、ドームになった天井てんじやうに顔を向けて、また、息をつく。体の力が抜ける。全身の太い骨が抜き取られて、ふにゃふにゃになって、そこから力が抜けて、入れ替わりにお湯の温もりが染みていく。

徹夫さんは広い湯船の隅すみっこ——ワタルくんからは一番遠い位置で、そっぽを向いて、お湯に浸かっている。だが、もう、ワタルくんはビクビクしない。少しずつ徹夫さんのことがわかってきた。このひとは、やっぱり犯人役⑤ではなく、刑事役だ。犯人を追いかけるときは怖こわいけれど、捕つかまえたあとは、ちょっと優しい刑事だ。

脱衣場だつじやうで服を着替え、さあ帰るか、というタイミングを見計らって、ワタルくんは徹夫さんの正面に立った。

「連れて来てくれて、ありがとうございます」
ぺこりと頭を下げる。

すると、徹夫さんは不意打ちだったせいとか、妙にあわてて「いいから、そんなの、べつに……」と A^⑥ を泳がせ、ああそうだ、と思いだして言った。

「いつもは風呂の中で台本を覚えてるんだって？ このまえ、ちょっと聞いたんだけど」

「はい……」

「もうやめろよ、そんなこと」

徹夫さんのまなざしは、また、いつものおつかないものに変わっていた。

「せっかく風呂に入つてるときにそんなことをやってたら、疲れなんて取れるわけないだろう」

叱られた。怖かった。だが、褒められているときに負けないぐらい、うれしかった。

徹夫さんはワタルくん※6に背中を向け、番台※6のほうを見て、「コーヒーとフルーツ、どっちがいい？」ときいた。

ほらあれだ、あそこだ、と番台の横の冷蔵庫あごに顎あごをしゃくる。「コーヒー牛乳か、フルーツ牛乳、あと、リンゴジュース」

——そんなに怒った声で言わなくてもいいのに。

ワタルくんはコーヒー牛乳を選んだ。

「晩ごはんの前だからおばさんにはナイショだぞ」

徹夫さんはワタルくんのぶんどけ飲み物を買って、「おじさんはウチに帰ってビールだ」と、初めてはつきりと、おか

しそくに笑った。

(重松清『たんぼぼ団地のひみつ』より)

※1 開襟シャツ：前襟えりの開いたシャツ

※2 半ドン：昼までの半日勤務のこと

※3 天地真理：女性アイドル歌手の名前

- ※4 窓用エアコン：窓に取り付けるタイプのエアコン
- ※5 ロケ：ロケーション撮影。機材を現場に持ち出して行う撮影のこと
- ※6 番台：銭湯などの入り口にあつて、入場料を受け取ったり見はりをしたりするための台のこと

問一 —— 線① 「ワタルくんの胸の内」(13行目)を表した言葉としてもっとも適当なものを次から1つ選び、記号で答えなさい。

ア うれしさと苦しさ

イ 喜びと悲しさ

ウ 幸福とおどろき

エ 期待と不安

オ 安心と不満

問二 —— 線② 「いつもよりちょっと、ほんの少しだけ、表情がやわらいでいる」(26行目)とありますが、いつもの徹夫さんはどんな様子ですか。本文の言葉を使って30字以内で書きなさい。

問三 —— 線③ 「しかも、歩くにつれて、どんどん軽くなっていく」(65行目)とありますが、ワタルくんの足取りが「どんどん軽くなっていく」のはなぜですか。理由を説明したものととして適当ではないものを次の中から1つ選び、記号で答えなさい。

ア 商店街で目に入る光景がどれも楽しそうなものだったから

イ 徹夫さんが、ワタルくんが飽きない^あように説明してくれるから

ウ 仕事を離れて自由^{はな}に時間を過ごせているから

エ 初めて行く銭湯が楽しみであったから

オ 仕事抜きで街をぶらぶら歩くのはひさしぶりだったから

問四 —— 線④ 「『少し先』はやっぱり変わらず『少し先』のままだった」(70行目)とはどのようなことですか。適当なものの中から1つ選び、記号で答えなさい。

ア 徹夫さんがワタルくんいらだって、歩調を速めているということ

イ 徹夫さんがワタルくんを気づかって、歩調をあわせているということ

ウ ワタルくんが徹夫さんをこわがって、間を空けて歩いているということ

エ ワタルくんが徹夫さんにかまわずに、自由気ままに歩いているということ

オ どんなに急いでもワタルくんが徹夫さんに追いつけないということ

問五 —— 線⑤ 「犯人役」(78行目)とはどのような人物か、わかる部分を本文より17字でぬき出し、始めと終わりの5字を書きなさい。

問六 —— 線⑥ 「Aを泳がせ」(83行目)について「動ようが表情に表れている」という意味になるように、空らんに漢字1字を入れて、慣用表現を完成させなさい。

問七 —— 線A～Eの徹夫さんの言葉のうち、ワタルくんを商店街や銭湯に連れていくことで、徹夫さんがワタルくんに伝えたかったことが表されているのはどの言葉ですか。1つ選び、記号で答えなさい。

問八 「徹夫さん」の人物像を説明したものととして、適当なものを次から1つ選び、記号で答えなさい。

ア せっかちで、人を待つことができない人物

イ 他人のペースなどおかまいなしの自己中心の人物

ウ 態度はそつけないが、情のあるやさしい人物

エ 明るく元気な妻におされており、気弱だがやさしい人物

オ いつも怒っているのは見せかけで、本当は心の弱い人物

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数制限のある問いは、句読点や記号も1字に数えます。)

これからの社会を語るときによく出てくるキーワードに「ダイバーシティ」(diversity)があります。日本語で「多様性」と訳しますが、それを「ダイバーシティ」とかつこよくカタカナ語でも言うんですね。「職場でダイバーシティを高める」と言うと、性別や国籍こくせき、障害の有無などにとらわれず、いろいろな人材が活躍かつやくできるようにする、ということなのです。

生物全体にもダイバーシティがあります。地球上には、いろいろな異なった種類の動植物が存在し、それによって生態系が保たれています。生物のダイバーシティを保全する「生物多様性条約」は、1993年に発効しています。

ことばにもまた、ダイバーシティが必要です。いろいろな生物によって生態系が保たれている、というのと同じ見方に立てば、いろいろな言い方、表現があるからこそ、ことば全体の活力が保たれている①ということは、容易に推測できるはずです。

A、「宿屋」「旅館」「ホテル」と3つもことばがあるのは面倒めんどうくさいので、全部「宿泊所」と呼ぶことにしよう、となったらどうでしょう。必要なら「和風宿泊所」「洋風宿泊所」と区別すればいい——そんなことは非現実的ですね。

あるいは、「そうじゃないか」は崩くずれた言い方なので、「そうではないですか」に統一しよう、ということになったらどうか。ことばの微妙びみょうなニュアンスは出せなくなりそうです。

わずかな例から分かる通り、「ことばにダイバーシティが必要だ」という意見は、ごく当たり前のことです。B、世の中の様子を見ると、その当たり前前あたりまへのことが、あまり重視されない場合も多いのです。

今回は、ことばのダイバーシティーに関して、国語辞典はどういう態度を取るべきかを考えていきます。先回りして結論を言ってしまうならば、私は、これからの辞書は、多様性をより積極的に示す方向に向かうべきだと確信しています。

② 最初は誤用扱いされていたのに、独自の活動の場所を得て、個性を発揮するようになったことばもあります。その代表は「なにげに」です。

「なにげに」は、もとは「なにげなく」の変形として、1980年代後半から1990年代にかけて広まったことばです。たとえば、「なにげなく見ると」を「なにげに見ると」と言ったりするようになりました。1990年代の初めに出た日本語学者の著書にも「ちかごろ耳にたついいかた」と記されていて、研究者も個人的には違和感を持ったことが分かります。

国語辞典で最初に「なにげに」に触れたのは『岩波国語辞典』第5版（1994年）です。

何気〔略〕「何気無く」を「何気に」と言うのは一九八五年ごろからの誤用。

〈一九八五年ごろ〉とは、年を非常に具体的に特定しています。これは、へんさんしゃ編纂者が当時勤務していた大学や、他の何校かの大学の教員に話を聞いた結果、そう判断したということです。いずれにせよ、「なにげに」は誤用であって、あくまで「なにげなく」を言い誤ったものと解釈されています。

私たちの作る『三省堂国語辞典』では、次のように、2001年の第5版から「なにげに」の項目を立てました。

何気に「俗」^{ぞく}なにげなく

これで終わり。ひどくそつけない説明ですね。ただ、「誤用」とは書かず、「俗」としてきます。これは「俗に用いられる」ということです。「なにげに」を否定していないところは、ダイバーシティーを認める姿勢と言っているいいでしょう。

ところが、その後、「なにげに」は新^③しい意味^{かごとく}を獲得しました。2014年に出た現在の最新版(第7版)では、次のように3つの意味に分けて説明しています。

何気に「俗」①なにげなく。なんとなく。「——時計を見たら、もう十時だ」②さりげなく。「——ピーマンを食べ残していた」③「表面はなにげないようすで」意外に。けつこう。「ほめられると——うれしい・お茶が——おいしい」「下略」³⁵

①の〈なにげなく。なんとなく〉や、②の〈さりげなく〉は、元になった「なにげなく」と共通する意味です。でも、③の〈意外に。けつこう〉は、「なにげなく」にはない意味です。「ほめられると、なにげにうれしい」とは言いますが、「ほめられると、なにげなくうれしい」とは言えません。

この時点で、「なにげに」は、「なにげなく」とは違^{ちが}った、独自の居場所を見つけました。ことばの独り立ちと言ってもいいでしょう。もとは「なにげなく」の言い誤りだったかもしれませんが、やがて、「なにげに」でなくては言い表せない⁴⁰

状況じようきやうが現れました。今の人々にとって、「なにげに」は、なくては困ることばになりました。

そうすると、国語辞典で〈近年「何げなく」「何げなしに」を「何げに」と言うが、誤り〉（『明鏡国語辞典』第2版）と切り捨てるのは、少し行き過ぎです。「なにげなく」「なにげなしに」「なにげに」という、それぞれのことばに存在価値④があると考えたほうがいいでしょう。

金子かねこみすゞの詩に「私と小鳥と鈴と」というのがあります。鈴にも小鳥にも、そして自分にも美点があるということ述べて、〈鈴と、小鳥と、それから私、／みんなちがって、みんないい〉と結んでいます。ダイバーシティー、多様性を認める物の見方です。

およそどんなことばも、必要とされて生まれたのであって、どこかに美点を持っています。ことばも〈みんなちがって、みんないい〉という視点で見るべきです。これからの国語辞典は、そのことばを⑤はつきりと念頭に置いて作っていかねばなりません。

ただし、「どのことばも、みんないい」と言うだけでは、無責任につながります。私は、「どんなことばも、どんな場合にも使っている」とは言っていない。

たとえば、もし、総理大臣が公の式典で、ら抜きことばで挨拶あいさつをしたなら、さすがに私は驚おどろくと思います。あるいは、政治家が記者会見で「なにげにありがとうございました」と言ったならば、軽い感じがすると思います。これらはいくまで架空かくうの例です。

このように、場面をわきまえずにことばを使うことがないよう、国語辞典はガイドをしなければなりません。そのガイドの方法のひとつが、「文体を表示する」ということです。

先ほどの「なにげに」については、私たちの作る辞書では〔俗〕という表示をつけていました。俗用ということですね。記者会見の席で「なにげに」を使うのは、わざとならともかく、一般的にはふさわしくないということを、〔俗〕で示しています。

あるいは、話しことばならいいけれども、きちんとした書きことばでは注意したほうがいい場合には〔話〕という表示をつけています。部長との会話で「じゃあ部長、これで失礼します」と言うことは、実際にあります。でも、部長へのメールで「じゃあ部長……」と同じように書くと、その人の評価は下がるでしょう。〔話〕は話しことばで使うことを表しています。

反対に、文章で使うことばには〔文〕という表示をつけます。久しぶりに会った人に「一別以来、ご無沙汰しています」と言ってもぼかんとされます。「一別」は以前別れたことを言う文章語です。会話には交ぜないほうがいい、ということまで、〔文〕と表示します。

ことばの C を認めることは、どのことばも同等だと考えることはありません。それぞれのことばには、独自の活躍の場があります。国語辞典では、文体をはっきり表示するなどの方法によって、利用者が困らないようにしておくことも必要です。

(飯間浩明『ことばの多様性を提示する』より)

問一——線①「ことは全体の活力が保たれている」(7行目)とありますが、この理由を本文より16字でぬき出しなさい。

問二

A

 (9行目)、

B

 (13行目) にあてはまる語句の組み合わせとして適当なものを次の中から1つ選び、記号で

答えなさい。

ア Aたとえば Bしたがって

イ Aたとえば Bところが

ウ Aだから Bたとえば

エ Aところが Bしたがって

オ Aところが Bだから

問三——線②「なにげに」(19行目)についての『岩波国語辞典』第5版・『三省堂国語辞典』第5版の項目の違いを

説明したものとして適当なものを次の中から1つ選び、記号で答えなさい。

ア 『三省堂国語辞典』は間違いだと否定したが、『岩波国語辞典』は正しいと肯定した。

イ 『三省堂国語辞典』は「なにげなく」と区別したが、『岩波国語辞典』は区別していない。

ウ 『岩波国語辞典』は早くからその意味の独自性を認めたが、『三省堂国語辞典』は遅かった。

エ 『岩波国語辞典』は間違った表現だとしているが、『三省堂国語辞典』は否定していない。

オ 『岩波国語辞典』も『三省堂国語辞典』も文章にはふさわしくない表現だとしている。

問四 ——— 線③ 「新しい意味」(32行目)とは、どのような意味ですか。その意味を本文より10字以内でぬき出しなさい。

問五 ——— 線④ 「存在価値」(43行目)と同じ意味で使われている語句を本文より6字でぬき出しなさい。

問六 ——— 線⑤ 「念頭に置いて」(49行目)とありますが、「念頭に置く」の意味として適当なものを次の中から1つ選び、記号で答えなさい。

- ア 想像する
- イ 期待する
- ウ 意識する
- エ 心配する
- オ 反省する

問七 C (68行目)にあてはまる言葉を本文よりぬき出しなさい。

問八 ——— 「多様性をより積極的に示す」(16行目)とは、具体的にはどのようなことですか。45字以内で書きなさい。

問九 最近若者を中心に使われるようになった次の~~~~~の表現について、国語辞典にどのような記載きざいをすればよいと考えるか。理由とともにあなたの意見を100字以内で書きなさい。

Aさん 「昨日の大雨、大丈夫だった?」

Bさん 「かさがかわれちゃってさ、ぜんぜんだいたいよばなかったよ。」